

2023 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 医療総合学科 | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|------------|---------------------|--|----------|---|---------------|
| 科目名 | 心理学概論 | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 前期 | 教室名 | 406 |
| 担当教員 | 嶋村由紀子 | 実務経験と その関連資格 | | | | |
| <p>《授業科目における学習内容》</p> <p>心の援助のための様々なアプローチ方法について心理療法という観点から学び、具体的な精神病理についても理解する。また、心理検査の体験を通じて、自分自身がどのような人間かを深く洞察し理解した上で、他者と意思疎通を図るために有効な技法などを演習を交えて学んでいく。</p> | | | | | | |
| <p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>1、定期試験または実技試験;70% 2、出席評価点:20% 3、平常点(授業態度・レポート):10%</p> | | | | | | |
| <p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>適宜、資料を配付する。 【教科書】「これからの心の援助」 ナカニシヤ出版</p> | | | | | | |
| <p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義内の演習に関する小課題を原則として課す。指定した期日を厳守の上、提出すること。</p> | | | | | | |
| <p>《履修に当たっての留意点》</p> <p>講義ではペア・ワーク、グループ・ワーク形式の演習を多用し、対人援助について体験的に学ぶ機会を提供するので、講義への参加(課題の提出)を成績評価の上でも非常に重視する。相手を選ばず自分から人と積極的に関わる意欲・態度を持って本講義に臨んでほしい。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 3つの「きく」を列挙し、特に「聴く」ことの大切さを説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「聴き方の持ち味」についての振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 臨床心理学の位置づけ、心理専門職の役割 人の話を「聴く」ということ:聴き方の持ち味を探す演習 | | | |
| 第2回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 一対一での密な対話が作り出す関係性の変化を一つの体験として感じることができる。 | 教科書、配付資料 | 「出会いのこころみ」についての振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 人との関係性を深めるとはどういうことか:「出会いのこころみ」演習 | | | |
| 第3回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | クライアント中心療法の特徴を説明できる。 セラピストの中核3条件を列挙し、それぞれの意味を説明できる。 | 教科書、配付資料 | セラピストの中核3条件を復習して覚える。 言語的技法の演習について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | クライアント中心療法① ・理論概要、セラピストの中核3条件について ・言語的技法の演習 | | | |
| 第4回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | セラピストの中核3条件を十分満たせるような「聴き方」を体験的に学び、実際の対人援助に生かすことができる。 | 教科書、配付資料 | 言語的技法の演習について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | クライアント中心療法② ・言語的技法の演習 | | | |
| 第5回 | 講義 演習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | セラピストの中核3条件を十分満たせるような「聴き方」を体験的に学び、実際の対人援助に生かすことができる。 | 教科書、配付資料 | 言語的技法の演習について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 | |
| | | 各コマに おける 授業予定 | クライアント中心療法③ ・言語的技法の演習 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|--------|-------------|--|----------|--|
| 第6回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 精神分析の重要概念のうち、構造論と局所論について説明できる。 | 教科書、配付資料 | 構造論および局所論、防衛機制について復習をして覚える。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 精神分析 ・重要概念： 構造論、局所論、自由連想法、転移/逆転移、抵抗 ・関連事項： 防衛機制、心理学的発達段階理論、分析心理学 | | |
| 第7回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | エゴグラムの結果<5つの自我状態(CP,NP,A,FC,AC)>を適切に解釈し、自分がどのような特徴を持った人物なのか説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「エゴグラム」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 交流分析 ・概要 ・自我構造分析： エゴグラム演習 | | |
| 第8回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | リフレーミングがどのような概念かを説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「リフレーミング」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 家族療法 ・概要と代表的技法：リフレーミングの演習 | | |
| 第9回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 解決志向アプローチの基本3原則を列挙し、説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「解決志向アプローチ」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 短期療法 ・概要と代表的アプローチ：解決志向アプローチの演習 | | |
| 第10回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 古典的条件づけとオペラント条件づけの違いが説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「自律訓練法」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 行動療法 ・学習理論と行動理論 ・臨床への応用として： 行動療法の主要な技法、自律訓練法 | | |
| 第11回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 認知行動療法がどのようなものか説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「コラム法」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 認知療法 ・抑うつスキーマ仮説、論理療法、自己教示訓練 認知行動療法 ・行動的技法、認知的技法： コラム法の演習 | | |
| 第12回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | パーソナリティ検査の3分類を列挙し、それぞれ説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「投影法」について振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | パーソナリティ検査① ・質問紙法、投影法、作業検査法 ・投影法の演習 | | |
| 第13回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 作業検査法の体験を通して自己理解を深め、自分がどのような特徴を持った人物なのか説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「作業検査法」についての振り返りシートを完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | パーソナリティ検査② ・作業検査法の演習と解説 | | |
| 第14回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 心身機能の異常としての精神症状を語句を見て、その症状について説明できる。 | 教科書、配付資料 | 指定した「心身機能の異常としての精神症状」について復習して覚える。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 異常心理学・精神病理学 ・心に関わる諸問題 ・主な心身機能の異常としての精神症状 | | |
| 第15回 | 講義演習形式 | 授業を通じての到達目標 | 本科目における重要語句、キーワードについて説明できる。 | 教科書、配付資料 | 「まとめプリント」を完成させ、期日までに提出する。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 本科目のまとめ | | |